

## Fine Game

### 環 ROY | Tamaki Roy

1セットあたりの所要時間は概ね20～40分。

プレイヤーは5～10名程度を基準とする。

言語の記号的操作に習熟した者が、モデレーターとして1名加わる。

お互いの距離を2メートル程度確保し、空間に応じて幾何学的に整列する。  
進行は時計回りで行う。

最初のプレイヤーが言葉を発し、ゲームを開始する。

その言葉を起点に、次のプレイヤーは連想や響き（韻）を繋げて応答する。

順に言葉を送り、つなげていく。

例

繋ぐ → 鎖 → 金属 → 硬い → 赤い → 破壊 → 形 → 丸三角四角 → ある感覚味覚 → 舌  
→ 閻魔大王 → . . . . .

発する言葉は複数でも構わない。

単語や熟語はもちろん、文章や、感嘆符、非言語表現も可。

パスも可。

例

閻魔大王といえば地獄を想起する 地獄は炎 炎は熱い 辞書は厚い

↓

町内会 街の灯り すこしずつ変わる街並み 富山 割れたアスファルト

↓

たのしいね 人が集まると → 練り物 になると → 日曜日 ちび まるこ . . . . .

言葉の持つイメージや響きの繋がりを共有し、伝達を繰り返す。

モデレーターは狂言回しや道化師、または司会のような存在。

ルールの内と外を往来して、ゲームの遊戯性と流れを、能動的に調整する。

Concept and text by Tamaki Roy

2025.10.19 富山県美術館 - アーティスト@TAD